

1 学校教育目標

○思いやる ○自ら学ぶ ○やり通す

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○生徒の学ぶ意欲を向上し、自らを鍛え学力を伸ばすことのできる学校 ○生徒の社会性を育成し、人と協力しながら課題を解決する力を身に付けることができる学校 ○地域・保護者との信頼関係を構築し、力を合わせて生徒を育成する学校
○児童・生徒像	○思いやりの心と規範意識をもち社会に貢献する生徒。 ○向上心をもって自ら学び、目標をもって最後までやりぬく生徒。 ○心身ともに健やかで夢や希望を実現する自立した生徒。
○教師像	○生徒の個性を理解し、よさを伸ばそうと深い愛情と情熱をもって指導にあたる教師 ○謙虚に自己研鑽に励み、強い責任感をもって生徒・保護者の期待に応える教師 ○組織の一員として連帯感をもちチームで教育活動に取り組む教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

- 学校について [よさ] 閑静で落ち着いた地域環境と整った施設に恵まれ、充実した教育活動が展開されている。
 [課題] 学校の魅力づくりと学校からの情報発信（PR）の充実
- 生徒について [よさ] 明るく裏表が少なく人懐こい。諸行事等に意欲的に取り組む。
 [課題] 自分と社会のつながりに気づかず高い理想や夢に向かって努力しようとする気持ちや態度が十分に育っていない。
- 教師について [よさ] 生徒の立場に立ち、その成長のためによく努力する教員が多い。
 [課題] 経験の浅い若い教員が多いので、生徒指導力や学習指導力等の一層の向上が求められている。
- 保護者・地域について [よさ] PTA 役員・地域ともに協力的である。「地域の学校」との思い入れや期待がさまざまな場面で感じられる。
 [課題] 保護者の学校支援（PTA 活動、授業参観・保護者会の出席者数など）が減少している。

【前年度の成果と課題】

- 〈成果〉○落ち着いた学校生活
 ○道徳の授業を通しての豊かな心の育成
- 〈課題〉○教員の授業力向上と生徒の基礎学力の定着と向上
 ○キャリア教育、キャリア・カウンセリングによる学習意欲向上と家庭学習の習慣化
 ○不登校生徒等への支援・教育相談の充実

4 重点的な取組事項						
	内 容	実施期間（年度） R：令和				
		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	体験活動を通しての豊かな人間性や社会性の育成	○	○	○	○	○
3						

5 令和7年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
基礎学力の定着と向上		年度末学力定着確認テスト 正答率 60% 令和7年度区学力調査 通過率 65%		年度末学力定着確認テスト 正答率 57.4% 令和7年度区調査通過率 69.0% (R6. 67.8%)		区調査において達成基準を上回った。引き続き、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、さらなる授業改善とAIドリルの有効活用、家庭学習の充実を図る。		△	
B 目標実現に向けた取組み									
新規・継続	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	授業の充実	全教員	年間	<ul style="list-style-type: none"> 管理職による授業観察（「まとめ」「振り返り」の質の向上）（年2回）（学びの実感が持てる授業づくりの推進） 小中連携による授業研究（授業中のICT活用・話し合い活動の充実）（対面年5回） 授業見学月間の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 授業観察 生徒アンケート 年度末学力定着確認テスト 	<ul style="list-style-type: none"> 肯定的回答 80%以上 年度末学力定着確認テストの正答率 60%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 区調査（4月実施）「授業は楽しい」 75.4% 生徒アンケート（年度末実施）「授業は楽しい」 79.0% 年度末学力定着 57.4% 	授業に関する肯定回答は、年度当初目標値は未達成であった。取組の結果、年度末の調査は、79.0%と向上した。 <ul style="list-style-type: none"> 定着確認テストの正答率は57.4% 教科により差がみられるのが課題である。 	△

2 継続	ICT・AIドリルの有効活用	全教員	年間	<ul style="list-style-type: none"> 5教科担当で活用方法の検討会の実施 朝補習及び授業・単元のまとめ時等に活用 長期休業中の課題として活用 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケート 授業観察 	<ul style="list-style-type: none"> 肯定的回答 80%以上 90%以上の活用率 	<ul style="list-style-type: none"> 区調査(4月実施)「ICTの活用」 59.1% 生徒アンケート(年度末実施)「ICTの活用」 74.7% AIドリルの活用活用率は80%程度である。 	<ul style="list-style-type: none"> 全ての教員がICTを活用した授業を展開している。 AIドリルの活用率が低いので、年度途中に月に一度AIドリル週間を設けた。 	△
3 継続	朝補習 朝学習 (+放課後補習) 朝読書	全生徒	週4回 (定期テスト前4回)	<ul style="list-style-type: none"> 朝20分間学力補充 AIドリルを活用した朝学習 定期テスト前に放課後質問教室を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 学習コンテスト 年度末学力定着確認テスト 	<ul style="list-style-type: none"> 学習コンテスト正答率70%以上 年度末学力定着確認テストの正答率60%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 学習コンテスト全学年平均正答率(5月)87.4%(12月)76.7% 定着確認テスト正答率57.4% 	<ul style="list-style-type: none"> 学習コンテストは、毎回正答率%以上を維持した。 定着確認テストの正答率が57.4% 課題は、国語・漢字の読み書き、数学・図形、英語・聞き取りと英文記述 	△
4 継続・新規	家庭学習の習慣化	全生徒	年間	<ul style="list-style-type: none"> 全学年で家庭学習ノートの有効活用について指導 各教科の取り組み方をまとめた冊子を作成 授業の振り返りを基に内容の克服、重要ポイントの復習 	<ul style="list-style-type: none"> ノート提出率 生徒アンケート 学力定着確認テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ノート提出率90%以上 生徒アンケート10%向上 年度末学力定着確認テストの正答率60%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ノート提出率(週)は全学年90%を超えている。 生徒アンケート(年度末)「家庭学習習慣化」R6 61.6%→55.6% 定着確認テスト正答率57.4% 	<ul style="list-style-type: none"> 進路冊子を作成配付し、定期テストに向けて計画的に家庭学習に取り組みさせる。 ノートの質については、課題がみられる。 	×
5 継続	サマースクール	対象・希望生徒	夏季休業中7日間	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着 学習の習慣化 AIドリルの活用 	<ul style="list-style-type: none"> 事前テスト 事後テスト 	事後テスト正答率10%向上	<ul style="list-style-type: none"> 正答率が向上した。 数学の朝補習でもAIドリルを活用した。 	<ul style="list-style-type: none"> 精度の高いサマースクールを企画運営する。 	○

6 継続	年度末学力 確認・補充	1・2年 全生徒 国・数・ 英	2月 上旬	<ul style="list-style-type: none"> ・2月上旬学力定着確認テストを実施 ・学力定着が不十分なところを授業・朝・放課後等で補充 	<ul style="list-style-type: none"> ・学力定着確認テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度末学力定着確認テストの正答率60%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・定着確認テスト正答率57.4% 	<ul style="list-style-type: none"> ・定着確認テストの正答率は57.4% ・課題は、国語・漢字の読み書き、数学・図形、英語・聞き取りと英文記述 	△
7 新規	学校図書館 の活用	全生徒	年間	<ul style="list-style-type: none"> ・情報活用能力の活用 ・読書活動推進（委員会） ・学習機能センターの推進（授業時・昼休み・放課後） 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケート ・利用調査 	前年度10%向上	<ul style="list-style-type: none"> ・区調査（4月実施）「月に2冊以上本をよむ」42.0% ・図書委員がGoogleサイトで呼びかけ ・2月までの利用者数は昨年より上昇 	<ul style="list-style-type: none"> ・本を読む生徒は区平均と比べ大きく上回る結果となった。 ・OPACの利用開始や図書委員の活動の推進が図られた。 	◎

重点的な取組事項－2		体験活動を通しての豊かな人間性や社会性の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自尊感情・自己肯定感の向上		生徒のアンケートの肯定的回答70%以上	区調査や生徒アンケートの結果では、達成基準を概ねクリアした。	来年度もSSTやキャリア・カウンセリングを充実させ、自尊感情・自己肯定感の向上を図っていく。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
自尊感情を高める指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒のアンケートの肯定的回答70%以上 ・生徒主体の活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・異学年・児童交流の実施（特別活動、中学校・部活動体験等） ・学習コンテストや各大会上位入賞者等の表彰や掲示 ・生徒会による主体的な活動や学年リーダーによる学年行事の企画・運営 	<ul style="list-style-type: none"> ・区調査（4月）「自分には良いところがある」71.2% ・生徒アンケート（年末）73.2% ・生徒アンケート（年末）「行事に積極的に取り組んでいる」69.7% 	全行事を生徒主体の実行委員会で運営させた。地域ボランティア等に100名以上が参加。	○

<p>コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の伸長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・区調査「授業の時間に、いろいろな考え方を発表しあうことは好きだ。」60%以上 ・「自分の意見や考えを相手にわかりやすく伝えることができる。」60% 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教科で言語活動を取り入れた工夫ある授業の実施 ・生徒集会・学習発表会の充実(発表場面の設定増) ・計画的なSSTへの取組 ・管理職によるプレゼンテーション面接の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・区調査(4月)「授業の時間に、いろいろな考え方を発表しあうことは好きだ」45.1% ・生徒アンケート(年末)60.9% ・プレゼンテーション面接を実施し自分の考えを伝えることのできる生徒が増加した。(4月)65.8%→(年末)75.9% 	<p>全学年・全教科で、「他者との関わりから、自らの考えを広げたり、深めたりできる生徒の育成」に取り組むことができた。ICTを活用することで、表現する時間の確保や表現する場面を増やすことができた。</p>	<p>○</p>
<p>特別な支援が必要な生徒及び不登校生徒への支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・SC・SSW・関係諸機関と連携した不登校状況の改善 ・不登校生徒数昨年度比80% 	<ul style="list-style-type: none"> ・QU及び教育相談研修会実施 ・週1回特別支援委員会開催 ・家庭との連携強化 ・SSRの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・SC・SSWを積極的に活用した支援委員会の充実 ・不登校生徒数 R5 年度末 41/305(13.4%) R6 年度末 31/287(10.8%) R7 1月年末 20/325(6.2%) ・どこにもつながっていない生徒は0名である 	<ul style="list-style-type: none"> ・SSRを5月に開設、有効に活用し不登校生徒の出現を最小限に抑えている。新規の不登校生徒は減少している。また、昨年度より不登校の生徒の出席率も上昇している。 	<p>◎</p>

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

○学力向上アクションプラン

○体験活動を通しての豊かな人間性や社会性の育成

【成果】・3年生英語においては、スピーキング力育成に力を入れたのでESAT-Jのスコアが昨年の64.8→69.8、A・B層が50.0→69.3と大きく上がった。

・学習コンテストで、国語・英語の語彙力を向上させた。

・落ち着いた学校生活と生徒・教員との信頼関係の構築

「生徒の意欲や努力を正しく評価してくれる先生が多い」(生徒アンケート肯定的回答率：86.5%)

「時間を守って生活している」(生徒アンケート肯定的回答率：92.4%)

・豊かな心の育成

「道徳の授業は内容が工夫されている」(生徒アンケート肯定的回答率：85.2%)

「道徳や体験活動を通して、豊かな人間性や社会性が育っている」(保護者アンケート肯定的回答率：78.7%)

【課題】・さらなる基礎学力の定着と向上(課題のある単元：国語・漢字の読み書き、数学・図形、英語・聞き取りと英文記述)

・AIドリルの活用率が低かった。

・家庭学習の習慣化

「家庭での学習時間は1時間以上ありますか」(生徒アンケート肯定的回答率：39.2%)

「子どもは家で宿題や予習復習をする習慣が身についている」(保護者アンケート肯定的回答率:53.6%)

- ・不登校生徒等への支援(不登校生徒数 20/325人)と教育相談の充実

「学校での人間関係は良好か」(アンケート肯定的回答率:生徒85.5%・保護者84.6%)

「悩みや不安を相談できる先生がいる」(アンケート肯定的回答率:生徒69.1%・保護者57.0%)

【対策】・教員の学習指導力向上に向けた校内研修(ICT活用含)・小中連携研修(ICT・表現力向上等)を実施する。

- ・目的・学習意欲向上のため、キャリア教育(キャリア・カウンセリング含)について教員の理解をさらに深め全学年・全学級で様々な場面で展開できるようにする。
- ・SCやSSW、げんき等の関係機関と十分に連携しつつ、QUの分析やSST等も取り入れ、一人一人に寄り添った対応ができるようにする。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

「学力」に関しては、ほとんど全ての学年・教科が目標値(前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される値)を超える結果となりました。授業に関する生徒アンケートの結果も肯定的回答が82.9%と高い結果がでました。「自尊感情」に関しては、意識調査「自分には良いところがあると思う」「努力すれば、自分もたいていのことはできると思う」の項目で国の平均近くの結果を示し、生徒アンケート「学級の人から頼られていると思う」の項目が大きく上昇(4月50.9→11月85.5)しました。「学習意欲」も生徒アンケート「学校の授業は楽しい」(4月76.5→11月79.0)・「グループ活動等では、自分から積極的に発言したり、皆で意見を出し合ったりすることができている」(4月65.8→11月75.9)の結果も上昇しております。

「教員の生徒理解」に関しても生徒アンケートの結果では、前年度よりも微減(70.4→69.1)してしまいましたが、保護者アンケートの結果は大きく増加(49.6→57.0)しました。二者・三者面談や校長面接、ICTを活用したアンケートやQU(生徒理解)の研修会等も行っておりますが、今後は日常の生徒観察・声掛け等を充実させていきたいと思っております。

コロナ禍明け、地域清掃・小学校学習ボランティア・地域行事ボランティア等に参加する生徒は確実に増え今年度の参加生徒数はトータルで100名を越えました。来年度も、ボランティア活動をより積極的に募集・外部へ公表していきたいと思っております。生徒アンケートの結果、部活に所属している生徒は約8割(79.6)が充実しているようですが、運動部の種類が少ないので、保護者のアンケートの数値は低い(32.8)です。来年度以降は、部活動指導員や外部指導員を多く導入し部活動を運営していく予定です。生徒アンケートの結果で特に気になる点は、家庭での学習不足(「家庭での学習時間は1時間以上ありますか」39.2%)です。塾に通っている生徒もいるとは思いますが、東島根っ子ノートや宿題提出の改善・見直しを図り、家庭学習をしっかりと習慣づけさせていきたいと思っております。今後も、本校は「授業力向上を常に考え」「生徒の良さや努力をもっともっと認め」「生徒の悩みをしっかりと把握し」「進路指導を充実させ」「生徒の意欲的な学習態度の育成」に努めていきたいと考えております。

(3) その他(学校教育活動全般について)

子ども達がこれからの変化の激しい社会を主体となって生き抜いていけるように、中学校教育の担うべき役割の大きさを自覚し、SSTやキャリア・カウンセリング等を充実させ、日々の授業や様々な行事、部活動、委員会活動等に熱意をもって取り組んで参ります。前例踏襲は事実上の後退と考え、常に前年より改善を目標に効果的な対応策を講じ、新しい時代にふさわしい学校教育を進めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。